

科学研究費「基盤研究(C)」(研究課題番号 19K01571 代表者:有江大介)による研究集会

第7回バトラー研究会

18世紀ブリテン思想史と社会的影響力の両面において重要な役割を果たしながらも、今日、忘れられた神学者、思想家と言われている Joseph Butler(1692-1752)を、ふさわしい位置に復活させようというのが本研究プロジェクトの中心的課題である。また、共同研究の成果の、日本語と英語双方による出版を計画している。

日時:2020年6月28日(日)13:00-16:00

方法:Zoom 会議により開催

- ・会議名:第7回バトラー研究会
- ・ミーティング URL、ミーティング ID、パスワードは **開催日当日(6月28日)** メールにて配布します

・研究会メンバー以外にも公開しますので、参加希望の方は以下の「参加申込書」に記入して **開催日前日(6月27日)まで** に 送信してください。

https://docs.google.com/forms/d/1dYX6i76tR-D7l_Qijf0rZ9XVlreLS_jt_lvVTVKPw0k/edit

課題:バトラーの神学と思想の背景を学ぶ

今回の研究会は(通算第7回)では、バトラー思想の背景となっている王立協会(Royal Society)が推進した実験的「自然哲学」の思想史的意義と影響について、青木滋之氏(中央大学教授)の知識提供を受け、討論する。

—— 当日のプログラム —— (司会:有江大介)

- 13:00-13:15 イントロダクション 大久保正健(研究協力者)
- 13:15-15:15 報告「実験哲学から経験論へ:王立協会の思想史的意義について」
講師:青木滋之(中央大学)
- 15:15-15:30 まとめ
- 15:30-16:00 (研究会メンバーのみ)
共同翻訳中の E. C. Mossner, *Bishop Butler and the Age of Reason* (1936) の
進捗状況と研究会の今年度スケジュールなど
報告:大久保正健(研究協力者)